

平成31年 3月31日

聖徳大学幼児教育専門学校

校長 川 並 順 殿

学校評価委員会

委員長 北 條 泰 雅

学校評価委員会報告

平成30年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校評価委員

- ① 北 條 泰 雅 (東京都私立幼稚園連合会 港地区会地区長)
- ② 佐 藤 裕 美 (聖徳大学幼児教育専門学校 卒業生)
- ③ 五 島 満 (学校法人慈光学園 理事長)
- ④ 中 山 伸 (社会福祉法人島田福社会 理事)

2 学校評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 平成30年 7月 3日 (聖徳大学幼児教育専門学校 301教室)
- 第2回委員会 平成31年 1月23日 (聖徳大学幼児教育専門学校 301教室)

3 学校評価委員会報告

別紙のとおり

以 上

各評価項目について

1 教育理念

[意見]

特になし。

[評価]

学校評価委員平均評定 4.00 (学校自己評価評定 4.00)

2 学校運営

[意見]

教職員による委員会による意見集約は尊重されるべきだが、一般的には、校長ないし事務長が全体の責任者となって事業を推進するものであるから、位置づけを明示すると良い。

最終決定後にフィードバックしそれをサイクル化することが重要であり、それが組織の活性化に繋がる。小さなことにも校長が判断に関わり教職員と連携を取ると信頼関係が増し組織の結束力が増すと考える。

[評価]

学校評価委員平均評定 4.00 (学校自己評価評定 4.00)

3 教育活動

[意見]

アクティブラーニングを含め授業方法の改善を具体的にシラバス等に記載し、それを教員間で共有することが重要である。また、実施には評価観点を伝え、学生の学ぶ意欲や満足度を高める取り組みが必要である。さらに、授業の展開を意識して導入部を工夫して欲しい。こうした改善の良い点を教員間で共有する教育集団を目指して欲しい。

アクティブラーニングが教育活動の眼目であり、今日の保育で必要なイメージと見通しを現場と学生、養成校の教員でデータやアイデアを蓄積し、具体化していくことが求められる。

離職した卒業生へフォローアップを行い、適切な職場を探せると卒業生の満足度に繋がる。

[評価]

学校評価委員平均評定 3.83 (学校自己評価評定 3.77)

4 学修成果

[意見]

特になし

[評価]

学校評価委員平均評定 4. 0 0 (学校自己評価評定 3. 6 7)

5 学生支援

[意見]

退学率が高い。幼稚園の先生や保育士になろうと思って入学し学んだ人が、途中で退学し、その方向に進まなくなってしまうことは非常に残念である。退学率減少に向け、更に努力していただきたい。

[評価]

学校評価委員平均評定 3. 4 0 (学校自己評価評定 3. 0 0)

6 教育環境

[意見]

危機管理マニュアルの作成、防災訓練等の取組を行っているので、引き続き実施しすることにより、保育者として意識付けを図っていただきたい。

[評価]

学校評価委員平均評定 3. 8 8 (学校自己評価評定 3. 7 5)

7 学生の募集と受入れ

[意見]

学校として色々な取り組みを行い努力している。しかし、少子化や社会構造的で厳しいため、学生確保が厳しいが、一層の改善を行い学生確保に努めてもらいたい。

[評価]

学校評価委員平均評定 3. 5 0 (学校自己評価評定 4. 0 0)

8 財 務

[意見]

少子化で学生確保が厳しいが、学園としてしっかり取り組んでいる

[評価]

学校評価委員平均評定 3. 5 0 (学校自己評価評定 3. 5 0)

9 法令等の遵守

[意見]

少子化で学生確保が厳しいが、学園としてしっかり取り組んでいる

[評価]

学校評価委員平均評定 4.00 (学校自己評価評定 4.00)

10 社会貢献・地域貢献

[意見]

東京オリンピックを控え、国際化社会への変化が保育現場にも波及しており多様な文化を学ぶ意欲が必要となる。

[評価]

学校評価委員平均評定 3.88 (学校自己評価評定 3.00)

全体を通じて

保育者養成校にとって大変厳しい時代であるが、荒波に屈せず頑張ってもらいたい。
変化の速い時代において、保育には変えてはならないものがある。保育現場も養成校と連携して取り組みたい。本校の改善が進展していることを感じた。
養成校入学に関する様々な取り組みを通じて、本校が高校生に幼児教育の魅力を感じる機会を提供すべく尽力していることを理解した。また、関係者評価のあり方や教育・学校における多角的評価の手法等について学ぶことができた。今後は、学生のニーズを評価に組み入れても良いのではないだろうか。
卒業生として本校で得たものは多い。四大や短大とは異なる専門学校の良さが伝わると良い。